

全校集会 学校長の話（2026年4月28日）

- おはようございます。ゴールデンウィークが始まりましたね。とはいえ、学校は残念ながら暦通りです。
- 明日は祝日ですが、きょう4月28日が何の日か、知っている人はいますか。
1952年、今から74年前のきょう、サンフランシスコ講和条約が発効しました。1945年の敗戦後、日本はアメリカを中心とした連合軍、いわゆるGHQに管理されていました。自分たちの国のルールを、自分たちで決めることができなかった。その状態が、この条約の発効によって終わりました。日本は再び独立を果たし、主権を取り戻したのです。だから、この日を「主権回復の日」と呼ぶ動きもあります。
- しかし、この話には続きがあります。この条約で日本は独立を回復した。でも、そのとき日本から切り離された地域があったことを、知っていますか。
沖縄諸島、奄美群島、小笠原諸島。これらの地域は、引き続きアメリカの管理下に置かれました。日本国憲法が適用されない。自分たちの権利が守られない。そういう状態が続いたのです。
- 奄美群島が日本に復帰したのは、1953年12月25日。小笠原諸島は1968年。そして沖縄が日本に返されたのは、もっと後の1972年5月15日です。講和条約の発効から、実に20年もの間、沖縄はアメリカの統治下に置かれ続けました。
- だから沖縄では、4月28日を「主権回復の日」としてお祝いするどころか、「屈辱の日」と呼ぶことがあります。日本の独立と引き換えに、自分たちは切り離された。その痛みが、この呼び方に込められています。
同じ日の、同じ出来事に対して、「主権回復の日」と受け取る人がいる。「屈辱の日」と受け取る人がいる。どちらも事実です。どちらか一方だけが正しいわけではありません。
- 僕がきょう伝えたいのは、「どんな物事にも、光と影がある」ということです。
これは、歴史の話だけではありません。皆さんの日常でも同じことが起きています。たとえば、仲のいいグループで楽しく盛り上がっている。自分たちにとっては、ただ楽しい時間です。でも、その輪に入れずにいる人がいたとしたら、その人にとっては、同じ時間がまったく違うものに見えているかもしれない。
- 何気なく言った冗談が、言った側にとっては軽い一言でも、言われた側にとってはずっと残る言葉になることもあります。自分にとっての「光」が、誰かにとっての「影」になっていないか。そこに想像力を働かせてほしいのです。
- 逆もあります。自分がしんどいとき、うまくいかないとき。それは「影」の部分です。でも、そこで終わりじゃない。そのしんどさに気づいて声をかけてくれる人がいたら、それが「光」になります。
- 僕がこの一年間ずっとお願いしてきたこと。「自分を大切にすること。隣にいる人を大切にすること。」これは、まさにこの「光と影」の両方に目を向けることだと思っています。自分の光だけを見て浮かれるのでもなく、影だけを見て沈むのでもなく。隣の人の光も、影も、ちゃんと見ようとする。そういう想像力を持った人でいてほしい。
- 新年度が始まって、もうすぐ1か月です。新しいクラスにも少しずつ慣れてきたころだと思います。慣れてきたときこそ、言葉が雑になりやすい。ちょっとした一言が、誰かの「影」をつくってしまうこともあります。
来週の集会は祝日でお休みなので、ゴールデンウィーク明け、5月11日の月曜日、「いじめ・いのちについて考える日」でまたお話をしたいと思います。以上です。